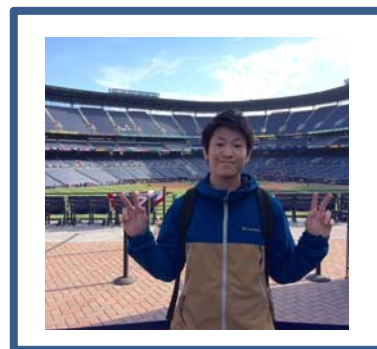


留学先：クレムソン大学

氏名：黒川晶平

(留学時 教育地域科学部 学校教育課程 4年)

留学期間：2015年8月～2016年5月(9ヶ月)



| | |
|------------------------------|--|
| 交換留学を希望した動機 | 将来、中学・高校の英語科の教員を目指す身として、求められる高度な英語力と幅広い教養を身に付けるため。周りに母語話者が少ない厳しい環境に身を置き、専門のみならず、自分の興味のある分野の学問を英語を介して学びたかったから。 |
| 留学先を決めた経緯 | 高校生の時からアメリカの規模の大きな学校に行き、活発な雰囲気の中で学びたい憧れを抱いていた。大学入学後、何度か短期の語学研修や海外旅行を経験。同じ学科の留学を経験した先輩方の話もあり、自分も異国で真剣に勉強したい、もっと異質な体験をしたいという気持ちが高まった。 |
| 留学先の大学について | サウスカロライナ州クレムソンにある州立大学。120年以上の歴史と広大なキャンパスがある。高い教育水準に定評があり、50州と70以上の国から1万8000人以上の学生を集めている。ビジネスと工学で有名であるが、豊富な種類の専攻が魅力。フットボールの強豪校として知名度は全米屈指である。 |
| 留学先で履修した科目や学習等 | ・教育学 ・World Cinema (映画) ・心理学 ・Social Justice (学校環境における社会的正義、教育学) ・Regional Geography (地域地理学) ・タップダンス ・日本文学 ・初級日本語 (TAとして参加) など |
| あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ | クレムソンは規模の大きい大学だからこそ、多種多様な人々との出会いの中で様々なことを学ぶことができます。そのため留学先では常に濃密な時間を過ごせました。英語が話せるかどうかではなく、自分は何をしたいのかという目標を大事にあらゆることにチャレンジしてください。Go Tigers!!! |

【交換留学の成果について】

① 交換留学を希望した動機をふまえた成果を得ることができたか。

まず英語力に関して、帰国後まだTOEICなどの試験を受けていないため具体的な伸びは確認できていませんが、約9か月の間にある程度の成長を感じられるようになりました。例えば、はじめは苦勞していた南部訛りの早い英語も時間とともに聞き取れるようになり、スピーキングにおいても、授業の議論の場でアカデミックな内容であっても、まとまりのある意見を発言できるようになりました。その他使える語彙の数や速読力など、コミュニケーション

ョンにおける4技能全てで留学前よりも自信ができました。今後試験を受けて確認していきたいです。

留学先で履修した授業については、どれも興味深いものばかりで、常に刺激を感じつつ勉学に励むことができました。専門的なトピックを全て英語で学ぶことに対してはもちろん苦労もありましたが、中には英語で読むからこそ理解しやすい分野もあったり、授業外で友人との話の引き出しが飛躍的に増えたりと成果はあったと捉えています。もともとの興味を深めるだけでなく、また新たな学問に疑問や関心を持つこともでき、留学後の学習にもつながる点は多かったように感じます。

② 自身が達成した目標を達成できたか。

留学に際して、私は以下のような3つの目標を立てました。

1つ目は、「将来のキャリア（教職）を支える経験を積む」という目標です。将来英語の教師を目指していることもあり、英語力の向上は最低限として位置づけていましたが、①で記したようにかなりの成長を感じるまでになりました。それに加えて、アメリカならではの教育の授業を通して新たな教育観を身に付け、日本語のクラスでTAを務めながら効果的な外国語の教授法を学ぶこともできました。

2つ目は、「たくさんの友人との交流を通して、異なる文化や慣習を受け入れられる日本人になる」ことです。国際理解の面で目標を立てたわけですが、幸運にもクラスや留学生コミュニティを通して国際色豊かな多くの友人ができ、彼らと長い時間を共にしたことで自然と達成できました。具体的にはコミュニケーションの壁や文化の違いに直面した時に、なぜ相手はこう行動したのか、自分なら日本人としてどう対応していたのかなどと試行錯誤しながら生活するようになりました。また日本語の授業も、自分の言動や文化を振り返る機会を豊富に与えてくれていたように感じます。

3つ目は「アメリカを満喫する」ということです。これも十分に達成できたと思います。熱狂的なカレッジフットボールの観戦も楽しみましたし、友人とアメリカ流の学生生活を満喫できました。また、休暇を利用して様々なところに旅行に出かけました。電車でのアメリカ横断やニューヨークでの年越し、国立自然公園めぐりなど、観光に関しては自分のやりたいことは全てやり終えました。



写真左：留学生の友人たち 右：アリゾナ州とユタ州にまたがる国立公園で

③ 留学先での学業を通して学んだこと。

向こうの大学で取っていた授業では、ほぼ決まってディスカッションの場がありました。この機会を通して、私は常に考え続けることの重要性を学びました。クレムソンの学生は講義中非常に積極的で、何か疑問や主張があればすぐに発言します。私もこの活発な雰囲気についていくために、講義中は絶えず考え続け、疑問を持つあるいは自分なりの意見を持つと意識していた結果、以前よりもクリティカルに物事を捉えられるようになりました。

また、誰に対しても平等に接する姿勢を学びました。多様性が顕著に見られるアメリカの社会においては、マイノリティも含めた包括的な世界を目指す取り組みもさかんです。特に後期の教育の授業では、社会における平等を人種や民族、言語や経済格差などといった視点で判断し、学校環境におけるあらゆる差をなくすことを学習しました。これは自分にとって全く新しい学びであり、グローバル化が進む日本においても、今後重要になっていく考え方だと感じました。

④ 留学先での生活を通して学んだこと。

一番の大きな変化は、今まで以上に自分や日本を客観的に見ることができるようになったことです。実家を離れて長く生活するのは初めてのことで、国籍や性格の全く異なる者と生活を共にしていると、日々他者と比較して行動を省みるようになり、自分の内面の知らなかった部分気づくことができました。また世界各国の多様な友人との関わりを通して、日本人としてのアイデンティティや個人が持つ様々な価値観を発見することができました。

以前はアメリカ人に対し強い個人主義の偏見を抱いていましたが、実際は他人を思いやる気持ちが強いことにも気づきました。例えば、建物に入る際に、他の人のためにドアを開けて待つという光景が当たり前に見られました。また、一人でバスを待っている私に気さくに声をかけ、「困っていることがあれば電話しろ」と連絡先を渡してくれた人にも会いました。

⑤ 留学前に期待していたこと以上にできたこととその理由。

最も期待以上だったのは、人との出会いです。本当に多くの友人に恵まれたからこそ英語を活用する機会をたくさん手にすることができ、様々な世界を知り、そして思う存分留学を楽しむことができたのだと考えています。クレムソンの先生方との出会いも大変貴重なものでした。TAの経験を提供してくださった日本語学科の先生や、自分の履修のために尽力してくださった教育学部のアドバイザーの方には本当に感謝しています。とにかく留学を通して、自分を支えてくれる多くの人脈を作れたことは期待以上でした。



写真左：日本語の TA をしていたクラスで
中央：週末のハウスパーティで友人たちと
右：お世話になった教育の先生と

⑥ 留学前・留学中に期待していたもののできなかったこととその理由。

当初は、言語学や英語科指導法などのより専門に特化した講義を受けたかったのですが、公立学校でのインターンが設けられていたり、教授の都合で開講されていなかったりしたため断念しました。1年間のみの交換留学生の身分では履修において限度がありました。

⑦ 交換留学での経験をふまえて、学業やキャリアにおける今後の目標

留学先で鍛えた英語力を保てるように、継続して英語に触れることを意識していきたいです。TOEIC や英検 1 級に挑戦し、実際にどれほど進歩したのかを確かめるとともに、将来に向けてさらに高めていく予定です。

現在は 7 月の福井県教員採用試験に向けて勉強をしています。大学卒業後は、県内の中学校・高校の英語科の教員になり、留学を通して得た経験をもとに生徒に英語を使う楽しさを提供できる授業に取り組んでいきたいです。